
隣の席のあいつ

仮面ライター騎士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

隣の席のあいつ

【著者名】

Z4987K

【作者名】

仮面ライター騎士

【あらすじ】

お前なんか嫌いだ。

でも、おまえと言い合ひ時間は嫌いじゃない。

ああ…

まだ…

気に入らない。

隣の席に座っているあいつ。

いつもへりへりしているくせに、僕より成績も良いし、顔だって悪くない。

どんなに嫌味を言つても効かないし、面白くない。

そんなことを思つて見てたら、あいつと目が合つた。

気に入らない。

そう思つて目を逸らしたらあいつが傍に寄ってきた。

「なんか俺に用か?」

「誰がお前なんかに! 僕はお前がだいつ嫌いだ」

そういうと、あいつは困ったように笑う。

いつものこと。

「あのさ…俺、なんでお前に嫌われてんのかわかんないんだけど?」「存在自体が気に入らない」

いつもへりへり笑つてて、成績だつて悪くない。

それに僕の苦手な運動だつて出来る。

なんたつて野球部のエース様だ。

僕より女の子にモテるし、とにかく存在自体が気に入らないんだ。

「こいつが居なかつたら世界が変わるかもしねー。」

毎日そつ思つて、何とかこいつを消滅させなかつて企んでる。
だけど、こいつはへらへら笑つてて…

「俺は、お前のこと好きだぜ」

いきなりそんなことを言われた。

「野郎に好かれたつて嬉しくないよ」

「…お前…自分可愛いの自覚しろよ…」

「死ねばいいのに。僕に可愛いとかありえないからさ」

なんか調子狂つ。

僕はあいつが大嫌いだ。

そのはずなのに…

毎日じうじてあいつと言ひ合つて居るのが、なんとなく毎常に無き
やいかなこもの気がする。

僕はもう、おかしくなつてるのかもしねー。

「お前、なんでいつも俺のこと見てるわけ？」

「……見てる？自意識過剰だよ。『睨んでる』もしくは『呪つてる』
の間違いだろ？今なら僕の生靈のほかにそこらへんの死靈でも何で
もくつづけてあげるよ」

ほんつと、やつぱりこいつ嫌い。

「こや、どつちかつてこいつ見つめても『の方が嬉しいんだけど

な

「煩い野球馬鹿」

「やつこつお前はオカルトマニアだろ?」

「文句ある?除霊も靈視もできるんだけど?」

「オープンで言つなよ」

あいつが笑う。

お前なんか嫌いだ つていつつも呪つてゐるのだが。
なんとなく。

あこつといつて呪つていつつも呪つてゐるのだが。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4987k/>

隣の席のあいつ

2010年10月28日06時56分発行